農地再生レインボー通信

福島県耕作放棄地対策協議会
平成22年9月30日
第3号

発行：福島県耕作放棄地対策協議会　編集：福島県農村振興課　TEL 024-521-7380　FAX 024-521-7545　E-mail：nosonshinko@pref.fukushima.jp

今季のさわやかリフレッシュ

『収益性の高い園芸作物で農地を有効に活用しましょう！』

～まとまった耕作放棄地には、土地利用型園芸作物の作付けを検討してみてはいかがですか？～

☆★☆★☆★土地利用型園芸作物の特徴★☆★☆★☆

① **加工用トマト**：契約栽培による生産のため、増反や単収向上により収入の増加が可能です。
② **アスパラガス**：露地栽培や施設栽培の組み合わせを経営に取り入れることでほぼ周年的出荷が可能です。
③ **ブロッコリー**：栽培が比較的容易な作物で、機械の導入や品種の組み合わせにより長期間にわたり出荷が可能です。

加工用トマトの栽培状況

アスパラガスの栽培状況

☆★☆★☆★土地利用型園芸作物を活用した解消事例★☆★☆★☆

① JA出資型法人の「みらいアグリサービス(株)（伊達市）」や「(株)ファームサポート（白河市）」では、耕作放棄地を活用して加工用トマトメーカーとの契約によるジュース用トマトの生産を行っており、安定した収入を得ています。

② 南会津町「(有)FKファーム」や「(有)南会津アグリサービス」は、雇用労力の有効活用を図るため、アスパラガスを取り入れ安定した複合経営を行っています。

☆★☆★☆★管理作業の省力化対策★☆★☆★☆

土地利用型園芸作物の生産には、定植・防除・収穫作業等の省力化が不可欠です。県では省力化（施設・機械の導入）を支援する事業の活用を推進しておりますので、積極的に活用してください。

○産地生産力強化総合支援事業

	園芸産地パワーアップ支援対策	多彩な園芸産地育成支援対策
事業実施主体	市町村・農業団体・営農集団・農業法人・認定農業者等	
対象作物	きゅうり、トマト、アスパラガス、もも、日本なし、りんどう	地域振興品目
補助率	4/10 以内	3/10以内（一般型）4/10以内（集落営農型）
補助対象	育苗・移植用施設機械等、栽培用ハウス、優良種苗	

むらからまちから

下郷町耕作放棄地対策協議会

の取組みを紹介いたします。

下郷町音金地区

① 協議会の設立経緯

平成20年度に国道289号甲子道路が開通し、関東圏とのアクセスが向上しました。そうした折、県南地方の農業生産法人が高冷地を活かしたブロッコリーを中心とした大規模な野菜栽培を実施したい旨の話がありました。

町内には昭和40年代に国営農地開発事業で開拓したまとまった農地が多く存在していますが、優良農地が少なかったことに加え、高齢化の進行等による耕作放棄地の問題を抱えていたことから、協議会を設立し、農業生産法人に対して農地の斡旋等の支援を実施しました。

② 今年度の取組み状況

耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、平成21年度に約30ha、今年度は約4ha の耕作放棄地の解消を実施していますが、こぶしより大きい石礫（せきれき）が多く、地力も乏しいことから栽培できる作物が限定され、長期計画でのほ場づくりに取り組んでいます。

③ 特徴的な取組み

協議会では、平成20年度にストーンクラッシャーを導入し、石礫の破砕による農地適地化を推進しています。

④ 次年度以降の抱負・活動展開予定

今後は、農業生産法人だけでなく地元の農業者に対して補助事業等についてPRし、更なる耕作放棄地の解消を図ります。

お邪魔します!!

「田人愛牛会」会長
松本 信勝氏

いわき市田人町で耕作放棄地を活用した放牧に取り組む、

和牛繁殖農家の松本（まつもと） 信勝（のぶかつ）さん

にインタビューしました!!

耕作放棄地を活用した放牧を始めたきっかけについてお聞かせください。

A いわき市田人町は、担い手の高齢化や過疎化が進み、条件が悪い農地は耕作放棄地になっています。
一方、飼料価格は高止まりの状況が続いており、自給飼料確保の観点から平成二十一年に耕作放棄地を活用した放牧を始めました。

耕作放棄地を活用した放牧を始めて良かった点は何ですか。

A 平成二十一年は約二ヘクタールの耕作放棄された水田に電気牧柵を設置し、牛を放牧しました。
放牧地は長期間作付されていなかったため、雑木や野草が生い茂っていましたが、雑木の一部を残して暑熱対策として活用しました。また、近くには沢水が流れているので、飲み水の心配もありません。
放牧は、牛が直接牧草を食するので、収穫する機械の必要がなく、経費節減にもなります。更に、放牧した牛は舎飼の時と比べて粗飼料の食い込みが良くなりました。
なお、電気牧柵は閉牧後に鳥獣害対策として作物の栽培に活用しています。

今後の耕作放棄地活用の展開についてお聞かせください。

A 厳しい畜産情勢の中で生き残るには、自給飼料の確保と省力化が重要となります。
また、耕作放棄地に牛を放牧することで景観が良くなるため、放牧の拡大に地域住民の期待も大きいです。
今後は、仲間を集い、放牧による耕作放棄地の活用推進と肉用牛の生産振興を図りたいと思います。

羅針盤 ～福島県・県協議会からのお知らせ欄～

お知らせ ～福島県からのお知らせ～

◎ ボランティア団体「耕作放棄地活用支援隊」の愛称が「ふくしま・たがやし隊」に決まりました。今後、１０月中に結団式・研修会を実施し、１１月から本格的な活動に入る予定です。なお、引き続き、ボランティアでご協力いただける「隊員」を募集中です。詳しくは、福島県農村振興課のホームページをご覧ください。

お知らせ ～県協議会からのお知らせ～

◎ 10月14～15日にかけて、下郷町を会場に「東北管内耕作放棄地解消事例発表会」が開催されます。東北管内の解消事例発表のほか、15日には除礫(れき)用作業機械の実演を含む現地調査も行われます。いずれか１日のみの参加も可能ですので、参加を希望される方は10月8日(金)までに最寄りの県農林事務所へお申し込みください。

編集後記

日ごろより耕作放棄地の解消及び通信への情報提供等にご尽力頂き、厚くお礼申し上げます。今度も様々な取組みや団体の活動をご紹介していきますので、皆様のご協力をお願いします。

※今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、nosonshinko@pref.fukushima.jp までご連絡ください。